

物 種 員 作 豊 國 画



女 物



八編上

1178 15



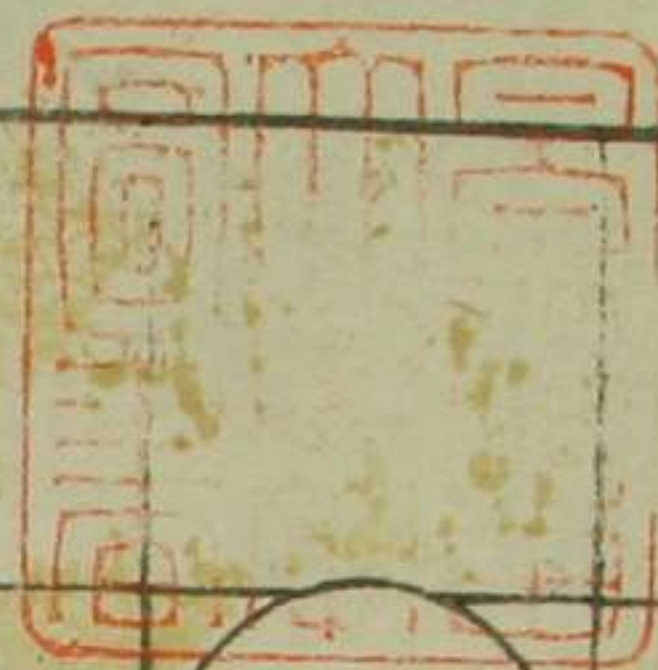


念 如

ウ

八編上

13
1178
15



1178
15

白縫

譚

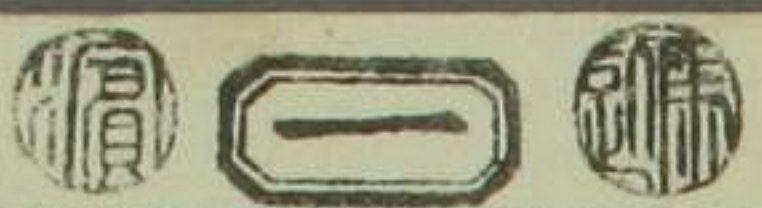
第八編 上册

種員作

豊國画

松林堂

壽梓



不知火物語第八編叙

碁石の黑白其色異、同物あり是等とて反對と稱せ
 此卷中の若菜姫鳥山秋作も又然心邪正の懸隔もこれとも
 所業ハ髣髴女丈夫英勇勝負を争ふ五角扁伎粘と断照忠が
 脅力割と鬆嬢子が妖術錦と獄の鉄錫のらも手小條を引張
 策子の盤面敲散、類小工夫ハ憚ども好作意と視る妙手ハ
 出で下手の考案止不似る此常言も的哉と拙き自を歎く
 以管冀晋官の御助言所謂他見八目の八編の序ハ因書者の詞
 本據ス斯ハ記フ

嘉永壬子開歲

柳下亭種員

博定書





大亀墳の
妖怪

大友左門尉景
の季子三良丸
緋徒と安養
と法号を
宗隣刑部等が
弟なり

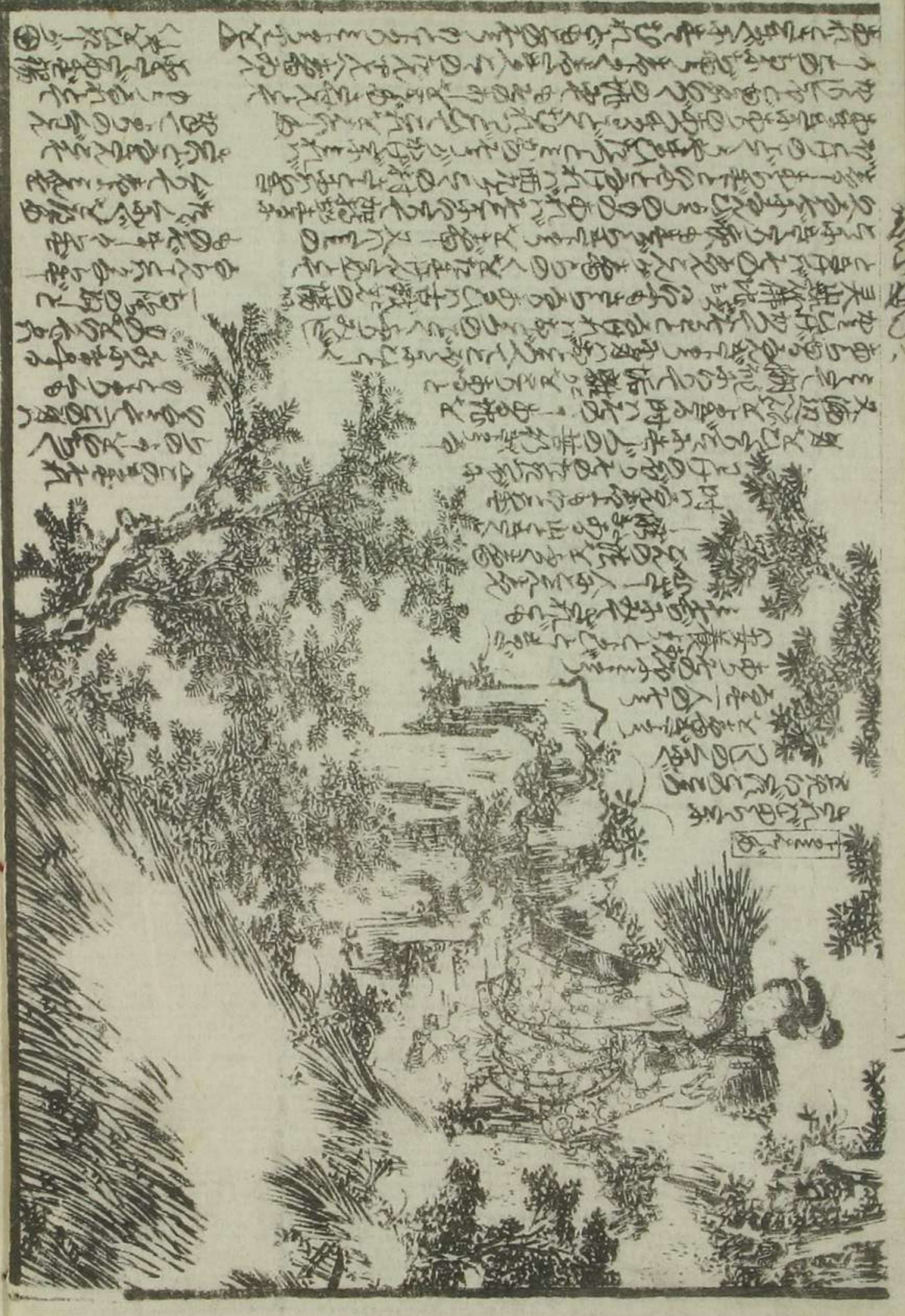


大友家歩更
只村弥太夫
後苑前園
落合品小
住
獵夫
弥平治
と呼

大亀家



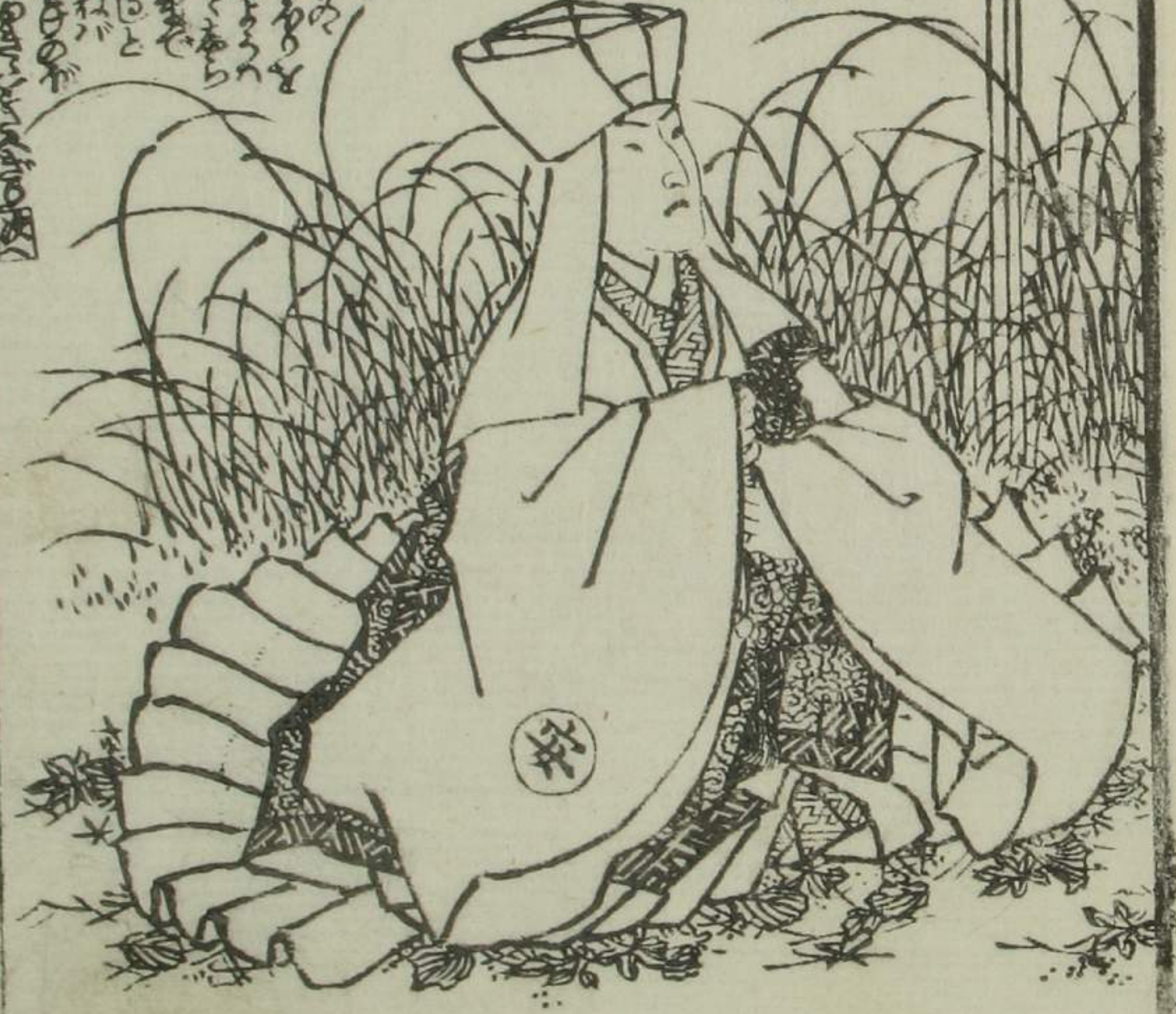
Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a dialogue or narrative. The text is written in a cursive style and is interspersed with the illustration. It appears to be a scene from a play or a story, with the man and woman as the main characters. The text is arranged in several columns, with some lines being longer than others, following the contours of the scene.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or dialogue. The text is written in a cursive style and is interspersed with the illustration. It appears to be a scene from a play or a story, with the landscape and the person in the foreground as the main elements. The text is arranged in several columns, with some lines being longer than others, following the contours of the scene.

のまきくこまの
 みま月まらちの
 いちぢかめ谷
 ありまうたのち
 甘あらまらち
 のあうめいの
 せうせい
 のまきくこまの
 みま月まらちの
 いちぢかめ谷
 ありまうたのち
 甘あらまらち
 のあうめいの
 せうせい

大亀冢



世来トミキトヤロとれまをのま
 船おまの海谷光行と白木山
 大徳とにのちせと同日あま
 夕方のこととてこまま
 うらめ八月日あまをのま
 東よりかのかのまのまらち
 せうせい



心まのかのまらちまらち
 とれまのまらちまらち
 せうせい





物

詰

種員作

豊國画



八編下



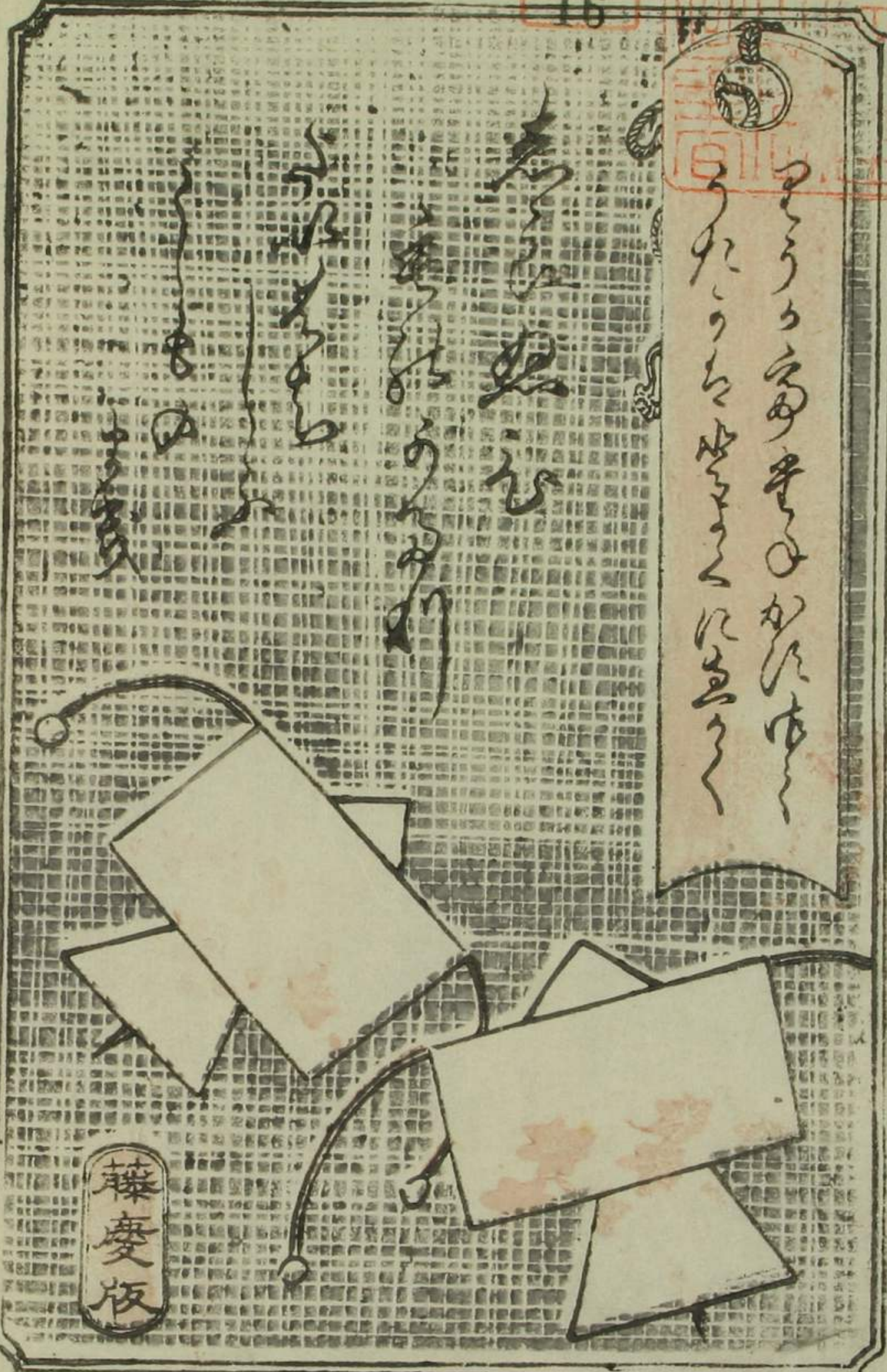
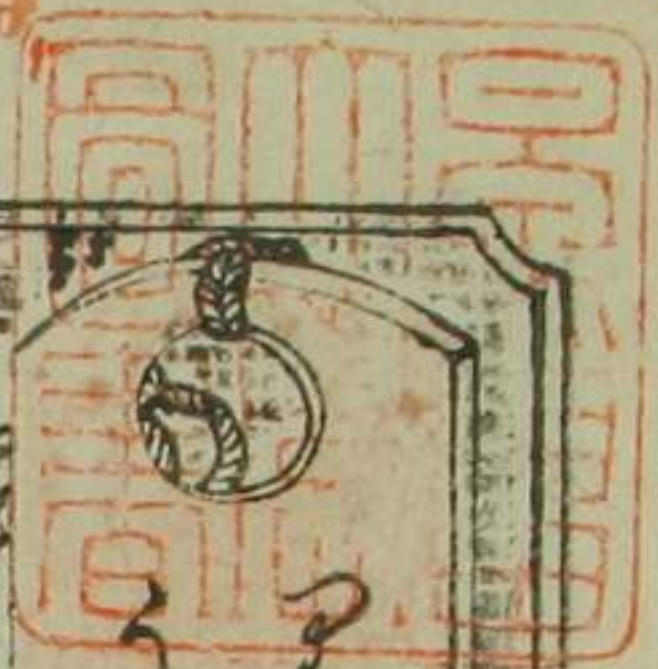
13

1178

16

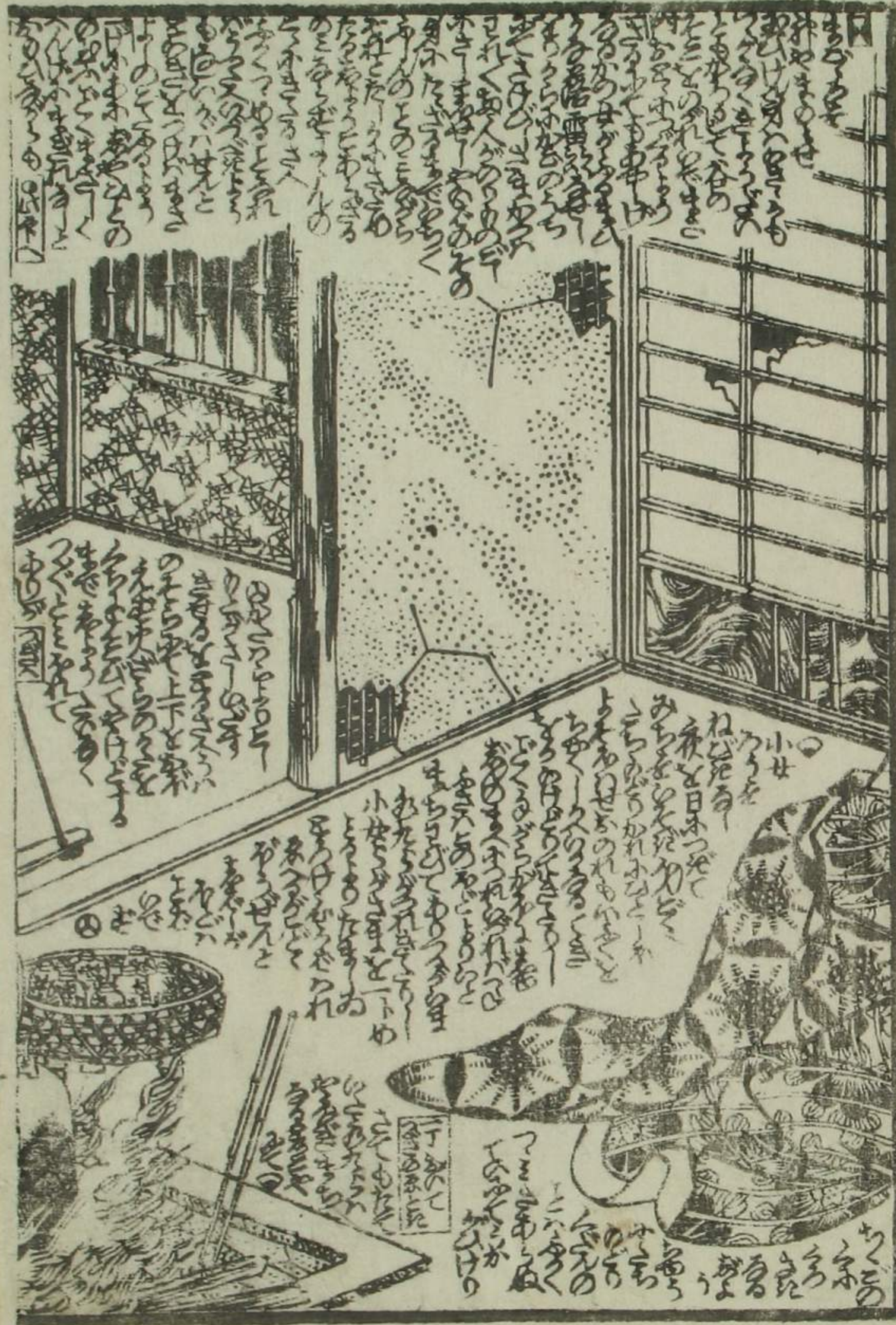


鹿の鳴き声は山に響く
 草の匂いは風に流れる
 秋の気配が心地よい
 鹿の姿は美しい
 自然の恵みに感謝
 静かなる風景に癒される
 心穏やかに過ごす
 秋の味を噛みしめる
 鹿の群れが遠くを歩く
 山頂から朝日が昇る
 静寂が心を落ち着かせる
 自然の美しさを堪能
 秋の訪れを喜ぶ
 鹿の存在が自然を豊かにする
 静かなる生活を楽しむ
 自然の恵みに感謝
 静かなる風景に癒される
 心穏やかに過ごす
 秋の味を噛みしめる
 鹿の群れが遠くを歩く
 山頂から朝日が昇る
 静寂が心を落ち着かせる
 自然の美しさを堪能
 秋の訪れを喜ぶ
 鹿の存在が自然を豊かにする
 静かなる生活を楽しむ



静かなる風景に癒される
 心穏やかに過ごす
 秋の味を噛みしめる
 鹿の群れが遠くを歩く
 山頂から朝日が昇る
 静寂が心を落ち着かせる
 自然の美しさを堪能
 秋の訪れを喜ぶ
 鹿の存在が自然を豊かにする
 静かなる生活を楽しむ

藤慶版











いそよの世とさるるがなりまもつこ
よのかれいさつとくやういせ
木友をうまがあらけさる
よひちこれともゆくと
かのいさるのまひこあらたのもが
方へ嫌したるものあり
つゆはまのつ

いそよの世とさるるがなりまもつこ
よのかれいさつとくやういせ
木友をうまがあらけさる
よひちこれともゆくと
かのいさるのまひこあらたのもが
方へ嫌したるものあり
つゆはまのつ

いそよの世とさるるがなりまもつこ
よのかれいさつとくやういせ
木友をうまがあらけさる
よひちこれともゆくと
かのいさるのまひこあらたのもが
方へ嫌したるものあり
つゆはまのつ



いそよの世とさるるがなりまもつこ
よのかれいさつとくやういせ
木友をうまがあらけさる
よひちこれともゆくと
かのいさるのまひこあらたのもが
方へ嫌したるものあり
つゆはまのつ

いそよの世とさるるがなりまもつこ
よのかれいさつとくやういせ
木友をうまがあらけさる
よひちこれともゆくと
かのいさるのまひこあらたのもが
方へ嫌したるものあり
つゆはまのつ

いそよの世とさるるがなりまもつこ
よのかれいさつとくやういせ
木友をうまがあらけさる
よひちこれともゆくと
かのいさるのまひこあらたのもが
方へ嫌したるものあり
つゆはまのつ

ついでに...
 のをく...
 こふる...
 おの...
 そ...
 ...

龍櫻井花瀉浪 初編二編

柳烟亭種久作
 寿斎国貞画

星月夜窓下白梅 初編二編

翠松園種春作
 一雄斎国輝画

滑稽 浮世文庫全二冊 柳昇亭種蒞合作
 笑談 柳雨亭種安

右の...
 校合の...
 仕...
 ...



種員作 國貞画

國貞改二代

彫 朝倉伊八

清書 金川

朝霞樓芳幾画

浪輝黄金鏡

三編 讀切

山々 惠齋 芳幾 人合
 松湖 素齋 玄魚 來魚 合
 假名垣 其魯 交來 文來 作
 可竹 其魯 水文 作

一對男...
 合作全備の三編冊
 同...
 ...

三編...
 定め...
 ...

北平草紙四巻

江戸深川佐賀町
 廣園齋助様

